第１回　白子町総合計画 振興審議会
議事録（要旨）

【日時】
令和４年９月 29 日（木）13:30～15:30

【場所】
白子町役場　第２会議室

【出席者】
〇委員
酒井良信委員、大多和正之委員、鶴岡一宏委員、秋葉広行委員、河野洋平委員、篠崎昌治委員、森伸也委員、細谷啓子委員、阿比留勝利委員、森徳郎委員、芹澤豊委員、中村泰子委員
〇事務局
大矢務企画財政課長、大塚嘉一企画財政課長補佐、加藤孝行企画政策係長
〇㈱ぎょうせい
営業：國吉広大　研究員：井澤和貴、中井和佳

【次第】
１.開会
２.あいさつ
３.委嘱状交付
４.自己紹介
５.振興審議会の運営について
６.会長及び副会長の選任について
７.諮問について
８.審議事項
（１）策定のスケジュールについて
（２）後期基本計画策定方針について
（３）序論・基本構想（案）について
９.その他
10.閉会

【資料】
・白子町第５次総合計画後期基本計画 策定スケジュール（案）
・白子町第５次総合計画 後期基本計画 策定方針
・白子町第５次総合計画 序論・基本構想（案）

【議事要旨】

１.開会

大塚企画財政課長補佐より開会の言葉。

２.あいさつ

石井町長よりあいさつの言葉。

３.委嘱状交付

委員の委嘱状の交付が行われた。

４.自己紹介

各委員より、自己紹介が行われた。

５.振興審議会の運営について

大塚企画財政課長補佐より、白子町総合計画振興審議会の運営に関する説明が行われた。

６.会長及び副会長の選任について

会長に芹澤委員、副会長に鶴岡委員が選任された。

７.諮問について

石井町長から、芹澤会長に対して諮問が行われた。

８.審議事項

（１）策定のスケジュールについて

大塚企画財政課長補佐より、スケジュール案をもとにこれまでの経過と今後のスケジュールについて説明が行われた。

〇審議

意見なし。

（２）後期基本計画策定方針について

大塚企画財政課長補佐より、後期基本計画の策定方針について説明が行われた。

〇審議

会　長：数値目標は、最近の見える化の流れで大事になっていると思うが、これはいつ頃、どのような形で知ることができるのか。

事務局：審議会委員には、２回目の振興審議会で報告する予定である。策定部会、策定委員会で検討したものを、２回目の振興審議会で議論いただく予定である。

会　長：大事な点になるので、よろしくお願いしたい。

委　員：町長が代わり、政策も前町長と今の町長と変わると思うが、後期基本計画は今の町長の考え方をしっかりと反映しているのか。

事務局：この後の基本構想（案）でも扱うが、町長のトップインタビューを２回行い、方向性等を確認している。アンケートやワークショップからみた課題も町長が確認しているため、それらにも対応するような計画になるのではないか。

委　員：町長の意見を重視するのは大事だが、後期基本計画はフォーカスする箇所を明確にした計画にしていただきたい。

事務局：この後のテーマにも関連するが、施策の体系としては６つの柱を立てている。他の自治体でも同じであると思うが、すべての分野について、網羅的に取り組んでいくことになる。全体の方針として６つの柱立てを行うが、実際に各年度で事業化をする際に、予算化の段階でメリハリをつけてやっていきたいと考えている。個別の予算立てをする際も議会に対してメリハリをつけたものを提案したい。

委　員：後期基本計画から数値目標を立てるとのことであるが、具体的にどのレベルの数値目標になってくるのかご紹介していただきたい。

㈱ぎょうせい：数値目標を設定するにあたって意識したのは、「測れるもの」である。町が統計しているものやアンケートなど、測れるもので数値目標を設定した。

具体的には、健康・福祉の分野では「検診の受診率」、「若返り教室（運動教室）の年間参加者数」、「健幸ポイント事業の 40 歳以上人口あたりの参加率」がある。

会　長：国全体でも見える化が進んでおり、白子町でも「観光客を〇〇人増やす」といった場合、そのために何をするか考えられたら良いのではないか。

（３）序論・基本構想（案）について

【序論】

大塚企画財政課長補佐より、序論（案）についての説明が行われた。

※基礎データ（p. ８～p. 14）、住民アンケート（p. 18～20）、住民ワークショップ（p. 21～p. 22）については、㈱ぎょうせいの井澤研究員による説明

〇審議

事務局：p. 24「（２）評価結果」は、前期基本計画の５年間について、各担当課が事業の進捗状況を評価したものであるが、数値目標がないので客観的なものではない。手前味噌にもなってしまうが、各担当課が進捗度について、「100％なら 100 点」のようにつけたものが、このような形で出てきている。

結果をみると、第３章「参加と協働のまちづくり」が弱くなっているが、今後としては産官学連携、広域連携によるまちづくりを進めていくことが重要と考える。

健康の分野では、国が方針を示しているが、方針が明確でない分野では、しっかりと工夫をして取り組んでいきたい。特に、行財政計画については市町村の取り組み具合によって大きく差が出てくるところであるため、行政運営のやり方自体にも工夫を盛り込んでやっていきたい。そういう意味で、外部の有識者、外部の知見も活かしていきたい。参考として、事務局が考えている意見を申し上げた。

委　員：住民参加型と聞いているが、前期基本計画の策定時はアンケートを実施しなかったのか。中学生くらいの年齢では、５年経つと「住んでもらえるか」「どのまちを選ぶか」が決まる世代になると思うので、重要な意見かと思う。約４割の人が満足していないという結果もあるが、前期基本計画の策定時には、アンケートを行ったのか。

事務局：前期基本計画の策定時にはアンケートを実施していない。５年で１サイクルと捉えるか、10年で１サイクルと捉えるかという問題はあるが、今後はこういったアンケートを継続的にやるようにしたい。今まではデータがない。

委　員：事務局から前期基本計画の評価について説明があったが、「第３章　参加と協働のまちづくり」にある 53.6%だと、大学で例えるならば追試のレベルとなる。「第１章　健幸で「いきいき・のびのび」地域の力でまちづくり」の評価からみると、福祉は充実してきていると思われる。第３章と第２章は、第１章との複合でも評価が変わってくると思うので、縦割りや個別の施策でだけでなく、今後は複合しながらまちづくりを進めていくことが必要だと考える。

p. 19 のアンケート結果について、約４割が住みにくいとなっているが、これは大きいと感じているのか。また、その理由はなぜなのか。

㈱ぎょうせい：配布してあるアンケートの p. 12 にもあるが、「住みにくいと思う主な理由」については、「交通の利便性が低い」「日常の買い物が不便」「自然災害に不安を感じる」が挙げられている。小中学生のアンケートについては、p. 67 にあるように少し言い方を変えているが、「白子町が嫌いな理由」として、「お店が少ない」「遊び場が少ない」「まちに魅力を感じない」が挙げられている。嫌いな理由が「住みにくい」となり、まちの課題にもつながってくると思う。

嫌いな人の割合が多い、少ないについては、個人の思いや進学先の多さにも関わるため、他と比べ、多いか少ないかは一概にはいえないが、少しでもまちの課題を解決して、より住みやすいと答える人が多くなるような取組が必要ではないか。

委　員：計画書にどう書くかという問題は別にして、改善点になるものはおそらく基本計画の個別施策にも関わると思うが、なんとなく良い点ばかりという印象がある。後ろの政策課題とつながっているのか、見えにくいところもある。配慮をお願いしたい。

委　員：計画をつくる際に、町民に安心してもらうような計画にするか、または少子高齢化が進み危機感を盛り込んだ計画にするかによって表現の仕方も変わると思うが、p. 15 以降の社会の潮流は、ひとつの項目の下にコメントが書いてあるため、わかりやすいと思う。

「白子町の特性」については、数字だけ出せば間違えないものとも思うが、表現がわかりづらい。例えば、p. 11 の「社会動態」をみても、人数の推移はわかるが、お年寄りが入ってきているのか、若い世代が出て行ってしまうのか、そういう視点も大事だと思う。

また、「保育所の入所者数」は横ばいで減っていないと思うが、子どもを養うため共働きとなり、預けなければならない。だから、保育所の入所はいつまでも減っていないように見えるだけの可能性がある。

「安心させる計画」「危機感を持ってもらうための計画」にもよるところだと思うが、時代の潮流のように、コメントを付けるのも良いのではないか。

事務局：基本構想の p. 30 に今後の人口動態の予測が書かれているが、この部分の詳細なデータを使用して、p. 13 にある子どもの人数の予測を入れていく方法も検討していきたい。

今は、各課に対して次期計画の調査を行っている最中であるため、それぞれの意向も踏まえながら検討をしたい。

委　員：p.25 の課題の【教育】について、「小学校の統廃合について検討を進められている」とあるが、現状を知りたい。

p.26 の【産業】について、昔からであるが製造業・工業の記載が少ないのはなぜか。第３次産業に次いで、第２次産業はウエイトが高いので、この点の話がないのはなぜなのか。

【住環境】について、コンパクトシティの検討が進められているとあるが、白子型のコンパクトシティについて、何をどう考えているかというところと、検討の概要で公開できるものがあれば知りたい。

事務局：p.25 の【教育】にある「小学校の統廃合」ついて、今年度から小学校の適正配置に向けて検討するための組織が立ち上がった。アンケート調査を実施したり、先進事例の研修を行うという情報も聞いている。教育長の話ではあるが、会議もスムーズに進んでいると聞いている。

P.26 の【産業】については、委員からも製造業の件で触れられたが、町長も製造業に興味を持っており、白子町の製造業の出荷額は大きい中で、今後、今の従業員規模を倍にしたいという希望を持つ人も複数いる。それを実現するためにどうするかというと、土地の問題もあり、一朝一夕には解決できない。

製造業に関わる意欲のある方への支援策については、今後の検討課題となるのではないか。基本計画では、細かい部分まで触れないが、そういう考えがないわけでもないので、ご理解を頂きたい。

p.26 のコンパクトシティについては、地方創生が始まった時に国土交通省から出された概念であるが、「中心」とよばれる区域が町内にいくつかあり、それらが下向き加減になってきたので、１箇所に集めて活性化しようとしたのが、都市部におけるコンパクトシティの考え方であった。

本町では、核となる箇所は弱いところだが、今計画が進んでいる県道茂原白子バイパスは、閉鎖したスーパーのあたりまで線形が出てきた。また、内谷川を渡って関まで入る方についても、県の方から「このあたりではないか」という建設予定の情報が来ている。その線に沿ったまちづくりをしていきたい。開通に向け、そこを中心にしたまちづくりを進めたいと考えている。便宜上、コンパクトシティと呼んでいるところもあり、いわゆる国や県の概念と違う点もあるかもしれないが、白子中学校や撤退したスーパーのあたりを中心に、県道茂原白子バイパスが来る。そこを町の中心にしようという考えである。

委　員：コンパクトシティについては、明らかに国や従来からいわれているものと概念が違う。白子町ではこういうイメージであるとの概念規定も必要ではないか。白子町では、昔から中心がないまちといわれているため、中心の形成や建物の誘導、学校の統廃合もイメージの記載も考えられる。

工業については、業態の情報が少ない、前期基本計画でもあまり記載がない。白子町は農業と観光のまちとの記載があるが、工業も色々な種類があるのではないか。新しい産業の誘導も考えはあるのだろうか。コロナなどを受けて新たな産業誘導の記載なども必要になるのではないか。

【基本構想】

〇審議

大塚企画財政課長補佐より、基本構想（案）についての説明が行われた。

委　員：p. 30 の人口推計が、次期計画（案）より新しいものになっている。現行の基本構想では令和９(2027)年の目標人口が 10,800 人となっているが、次期計画（案）では、目標人口を 9,400 人としている。その推計方法や 9,400 人にした理由を簡単に教えていただきたい。

加えて、9,400 人でなく、「9,400 人超」としているのは、どういう意味なのか。また、9,400 人になった場合の高齢化比率はどのような状態になるのか。

p. 31 土地利用の「④地区コミュニティの形成」については、活動コアを形成してコミュニティを充実するという意味なのか。新しく３地区にコミュニティを形成するという意味なのか。

㈱ぎょうせい：現行計画で掲げられた令和９(2027)年の目標人口「10,800 人」については、推計の根拠が不明瞭な点があった。人口推計や目標人口を考えるうえで重要になるものとして、もう１つ「第２期白子町人口ビジョン・総合戦略」があるため、事務局との協議も踏まえ、こちらについて、目標人口を設定するうえで参考にすることとした。

第２期白子町人口ビジョン・総合戦略では、p. 30 の四角の中にもあるように、「30 代前半夫婦と４歳以下の子ども２名の家族が、毎年 15 世帯転入」という考え方である。第２期白子町人口ビジョン・総合戦略では、「小学校を維持する」という前提のもとで、このような目標が建てられたが、小学校を維持するという考え方も変わり始めている。これを受け、「小学校を維持する」という記載はしなかったものの、家族の転入や子どもの数の維持は重要であると考えたため、第２期白子町人口ビジョン・総合戦略の目標人口の設定を踏襲した。

ただし、この第２期白子町人口ビジョン・総合戦略の目標人口の設定は、2015 年の国勢調査に基づいたものであるため、2020 年の国勢調査の数値に更新する必要がある。目標人口の考え方は同じで、人口そのものを更新したのが、p. 30 のグラフの赤色で示した「独自推計（新規）」である。

また、独自推計（新規）については、国勢調査が行われる年の推計が行われるが、基本構想の目標人口の年は、令和９(2027)年であるため、令和７(2025)年と令和 12(2030)の間の年を推計する必要がある。

委　員：どういった方法で算出したのか。

㈱ぎょうせい：国が配布している人口推計に用いるシート（エクセル）を活用した。そのうえで、令和７(2025)年と令和 12(2030)の間の年を推計すると、9,375 人になるため、その数字を参考にキリがよいところで上乗せした、9,400 人とした。

9,400 人超としたのは、たしかに 9,400 人にすることも考えられるが、多くても目標達成といえるので、少しでも多くなればとの意味も込めて、「超」をつけた。

委　員：総合計画で「超」を入れたものは、私自身は見たことがない。超えればよいという話でもないのではないか。

事務局：誤解を招く可能性もあるので、従来通り令和９(2027)年の目標人口は 9,400 人とする。

委　員：この時点での高齢化率は計算したのか。

事務局：高齢化率等は、健康福祉課が介護保険事業計画を持っているので、そういった情報を使いながら、必要なものを入れ込んでいく。介護保険事業計画では厚生労働省のソフトも使っているため、大きな乖離もないのではないか。介護保険事業計画は、かつて作成したものをみると、白子町の高齢化率とも合っている。

委　員：計画に入れることをお願いするわけではないが、その人口レベルになった時にどのような地域社会になっていくのかという話になる。一方で、産業や色々なところから人口を想定することも考えられる。そこから、雇用力や人口を想定していく。そうして、人口の年齢構成を考える方法もある。色々な方法があるため、お聞きしたかった。

事務局：p. 31 の地区コミュニティの形成の考え方について、新たにつくっていくという意味ではなく、今ある３小学校が無くなったとしても、再利用して新たな交流の場やにぎわい創出の拠点という位置づけで整備を考えている。あるものを維持するという考え方である。

委　員：学校を統廃合すると再利用という話になると思うが、今の地区コミュニティはすでにあるのか。もとは旧町村の中心にあり、廃校になって利活用するのは大事な点だが、コアがあって、サブコアが弱いと、人口が 10,000 人位で高齢化が進んだまちの場合、歩行圏内で支持力がある地区づくりをしないとこの先厳しくなるのではないか。そのことについては、この計画書からは読み取れない。

委　員：推計で「30 代前半夫婦と４歳以下の子ども２名の家族が、毎年 15 世帯転入」という目標は、このグラフの中に入っているのか。

㈱ぎょうせい：目標を踏まえたのが、p. 30 のグラフの赤の部分「独自推計（新規）」となる。反対に何もしない場合（特に政策を講じない）場合は、緑色の「趨勢人口」になる。

９. その他

事務局：後日意見等あった場合は、事務局までご連絡いただければ、次回の審議会に回答する。
次回の日程については、委員の皆様のご都合を調整したうえで、11 月中に決定していきたい。

10. 閉会

大塚企画財政課長補佐より閉会の言葉。